

平成23年度 福井県立美方高等学校 学校関係者評価書

- ・学校評価書の成果と課題が適切か。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。

後援会副理事長 金吾 康史
同窓会会長 石丸 清美
PTA会長 田辺 治和

中高一貫教育

- ・連携の目的は国公立大学者数を増やすものではないが、美方高校がほかの高校と比較される場合、国公立大学合格者数でなされることが多い。国公立大学の入試にチャレンジしていくことは生徒にとってもよいことである。
- ・本校では国公立大学だけでなく、子どもが行きたいところに全力でバックアップしてもらっている。今後ともこの姿勢を続けて欲しい。
- ・多様化している生徒の学力向上に向けてさらに教員が指導の工夫を行い、生徒・教員の満足度を高めていくことが必要である。

教育課程・学習指導

- ・授業が理解できていない生徒が全体の21%いるということは、楽しいわかる授業がなされていない部分もあるのではないかと。その辺の検証も重要である。
- ・教科担任以外の先生に指導を受けることはとても大切なことだと思う。その点本校は授業に入っていない先生も対応してくれているので生徒も理解を深められていると思う。
- ・少人数クラスでは目が届きやすく、個性にあった指導ができています。
- ・進学に結びつく自主的な家庭学習をもっと増やすための具体的方策について検討していくことが重要である。

生徒指導・部活動指導

- ・生徒指導の面では本校生徒はしっかりしているので心配はしていない。生徒の質が高く、安心してみていることができる。
- ・家庭ではどうしても気がゆるみ生活リズムが崩れている部分もあるのではあるが、もう少ししっかり出来るといいように思う。
- ・文武両道についてはどうしても部活動の結果や入試の結果で見えてしまいがちだが、本校生徒はマナーや礼儀がしっかりしておりこの面がもっとアピールできるとよい。
- ・文化部の活動についてももっと地域の行事に参加するとよいのではないかと。少人数でもかまわないので参加することによって地域の関心が高まり美方高校への評価も高まる。
- ・運動部については中学校と連絡をとり成果を高めていくことが必要。いわば運動部は本校の広告塔的存在である。文化部においても新聞部の「美方高校新聞」は高い評価を受けているのでこれを地域に配付することもいいのではないかと。

進路指導

- ・生徒にとって理想の職業と自分の適性にあった職業が違うことが多々あると思う。そのような時にどうすればいいのかわかると生徒との話し合いのなかで大切にしたい。
- ・大学の実習ではグループでの実習があるようで、出来具合がグループ全体の連帯責任という形で評価されるということを聞いた。グループでの活動に対する指導も高校時代にいろいろと行って欲しい。
- ・各個人にあった指導で生徒の将来性を大きくのばせていると思う。文武にわたり生徒一人ひとりが両面を満たせるよう惜しみなく努力が注がれていると思う。
- ・大学入試前の個別指導は、美方高校の特徴でありこれからも大切にしたい。

保健管理・安全管理

- ・地域的にも立地条件がよく生徒の行動もしっかりしているので問題はない。
- ・生徒に生き方についていろんな経験を積んだ人の話を聞かせるのは大事なことだと思う。今後も続けて欲しい。
- ・安全管理については教職員が常に気を配ることが重要である。
- ・挨拶や掃除はしっかりやっている。

図書整備・情報管理

- ・読書離れがいわれるなかで本の貸し出しが伸びていることはよいことである。
- ・生徒の読みたい本は年とともに変わる。うまくニーズを掴んでいくことが重要である。
- ・アンケート結果からCASAによる貸し出しシステムはうまく機能しているようである。

開かれた学校づくり

- ・地域の中に入っていきことも大事だが、学校施設を地域に開放していくこともあっていいのではないか。以前シアター30ができた当時は講演会が開催され地域の人たちへの呼びかけがあった。生涯学習がいわれるなかで、地域の人と話し合うこともあるといいのではないか。
- ・学校の広報誌や社会に対しての広報活動も行われておりよい。地域の活動に積極的に参加していけるとなおい。

学校全体

- ・美方高校は地域の学校を目指しているというアピールをどんどんやっていくべきである。学校規模が小さいのであるから小回りがきくはずである。合唱部やプラスバンドなども全員で行かなくても何人かで参加すればよい。
- ・社協とタイアップして一人暮らしの老人宅訪問やふれあい会食会に文化部や食物科などが参加するのもよいのではないか。
- ・携帯電話を持たせないことについては、その利点も保護者の間で浸透してきている。ただ、必要な時には柔軟に対処することも必要。今年の大雪に際しては持たせたが、これはよいことである。公衆電話が使えないということもあるので、教員と保護者の間でメールの連絡網をつくるのもよいことである。
- ・携帯電話やインターネットは犯罪やいじめにつながる人が多いので、その対策を十分にとることが必要。今後はサイバー犯罪の話を入学式ではなく、合格者登校日に実施するという事なので、入学前の早い段階で行えるのでよいのではないか。
- ・小さな学校ではあるが、地域社会が必要としている学校なのでなくてはならない学舎である。
- ・少子化の波に飲み込まれぬように基軸をしっかり持ち今後の活躍に期待する。
- ・生徒の人としての質や学生らしさは県内外においても自信が持てる。
- ・中高一貫教育の目的とするところをもっと明確にし、学校関係者をはじめとしたPTA、同窓会、後援会と在校生と一緒に魅力ある学校にするための協議会をつくる必要があるのではないか。

学校関係者評価をふまえた今後について

- ・中高一貫教育については学力向上への取り組みを強化し、一人ひとりの生徒に応じた具体的指導法を検討していく。
- ・全体的な学力向上においては自主的な家庭学習時間を増やす方策の検討と楽しいわかる授業の実践にさらに取り組んでいく。
- ・生徒指導面では時間の管理について学校だけではなく家庭においても適切に行われるよう指導していく。
- ・進路指導面ではグループのなかでの協議や外へ向けての発言についても指導していく。
- ・安全管理面では教職員の意識向上に向けた取り組みを強化していく。
- ・図書整備面では生徒の読みたい本が分かるようアンケートを適宜実施していく。
- ・PTA関係では広報誌をさらに充実させていく。
- ・地域との関係については学校から出て行くことと並んで学校に来てもらうことについても検討していきたい。